

商店街活性化の新たなパートナー ～下北沢一番街商店街振興組合～

理事長 久保田 英文 氏
(株)オープンイノベーション統括部長 太田 誠 氏

小田急線下北沢駅の北側に広がる商店街。地元住民の他、下北沢を愛する若者層も多く訪れています。順風満帆に見える商店街も、実は、後継者不足に悩んでいました。



思いを継承するため「法人設立」という選択

私達は、親の世代や先輩から商店街活動や地域づくりに対する考え方を受け継ぎ、活動ノウハウを代々に進化させてきました。しかしながら、商店街を取り巻く諸環境は年々厳しさを増しており、この理念やノウハウは、将来継承されていくだろうか、失われてしまう可能性もあるのではないかと考えました。

そこで、法人を設立し、「法人」という「人」が理念やノウハウを引き継いでいけば新陳代謝を繰り返しながら今後も残していける、と考え、平成23年1月に(株)オープンイノベーションを設立しました。商店街が出資者(株主)となり、商店街の副理事長が社長に就任しました。その他、様々な切り口を見出すため、弁護士や司法書士、一級建築士など商業者以外の方にも役員になっていただいています。

ちょうど同時期に商店街活性化のための計画を策定していたのですが、地域商店街活性化事業計画の認定を受けることができたので、(株)オープンイノベーションがこの計画を実施し、街の魅力づくり向上に関わることとなりました。

(株)オープンイノベーションの活動

これまで、「オープンイノベーションプロジェクト」をはじめ「しもきたコンシェルジュプロジェクト」や「トライアル店舗」など9つの事業に取り組んできました。

「オープンイノベーションプロジェクト」は、若手パフォーマーの発表の場として、各種塾やセミナー、会議なども展開され、地域のコミュニティスペースとして現在も引き続き活動の場となっています。「しもきたコンシェルジュプロジェクト」は、下北沢の街に知見のある方や語学の堪能な方をコンシェルジュに認定して多言語でご案内をしたり、多言語マップや外国語での接客用テキストを作成したりと、外国人観光客のおもてなし力の強化に努めています。

「トライアル店舗」は、この地で店を持ちたいという方を募集し、支援するものです。単に店舗を安価で貸すだけでなく、店舗オープン後に課題とその対応策についてアドバイスをします。これによって、毎月100万円前後の売上を上げる店舗や、常連客がつき街区内での開業を希望する店舗など、次の一歩へと力強く進む店舗が生まれています。



従来は活動は商店街で

こうした、商店街の新たな動きは(株)オープンイノベーションが中心となって取り組む一方で、商店街が昔から行ってきた祭りは、商店街のメンバーが運営しています。特に、阿波踊りは50年以上、天狗まつりは84回続けられており、遠方からも多くの見物客が訪れます。以前、存続が危ぶまれた時期もありましたが、参加した子供たちの「楽しかったよ!」という声、そして笑顔に、何があっても続けようと思っていました。

下北沢は、新宿や渋谷と吉祥寺の狭間に立地しており、何もしなければ沈んでしまうという危機感を常に持っています。ここ一番街はもとより、下北沢地域の6商店街で連携しながら、訪れるお客様のためになる取組をどんどん行って、地域ごと盛り上げていきたいと思っています。

がんばる商店街の皆様へ 応援メッセージ

どの街にも何か個性があるはずです。それを核にして頑張っていたきたいと思います。地域に愛される商店街は、必ず長く続きます。



写真左が太田氏、右が久保田氏